

空知へき地・複式教育研究連盟

委員長 古畑 聡子(深川市立北新小学校校長)

1 本連盟について

本連盟は、今年度の研究主題を

「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」

～児童生徒一人一人が仲間とつながり、

地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

として研究を推進し、令和5年11月8日には、第43回空知へき地・複式教育研究大会 砂川大会を参集参加とオンライン参加のハイブリッド形式で実施しました。開催の会場校の砂川市立北光小学校では、児童が自ら考えをもてるように具体物を提示したり、自分の考えをまとめる場面等でICTを活用したりするなど、児童が主体的・協働的に学ぶ第3・4学年の複式の授業を公開し、会員一人一人が自身の授業改善に向け、切磋琢磨に学ぶことができました。

2 研究大会を終えての成果と課題

グループ協議において出席者から出された意見や校内研修における反省の内容をまとめ、砂川市立北光小学校における今後の校内研修に生かすようにしました。

○ 成果

- ・考えをまとめる活動においては、学習内容や児童の実態を考慮したうえで、ICT機器やホワイトボード、ワークシートを選択することで、児童個々の解決方法の幅が広がり、より効果的な交流・多面的多角的な理解につながる事が明らかになった。
- ・ノートにまとめたものをロイロノートなどで画像化することで、その後の交流や学びの積み重ねにもなる。各学年で継続的に取り組むことで、系統的な指導となる。
- ・発表内容の精選においては、情報の取捨選択が重要となる。国語科の学習内容も踏まえながら、教科のつながりを意識した指導が必要である。
- ・学習前後の児童アンケートや振り返りの活用が、児童にとって授業が効果的だったかどうかを判断できる材料となる。

● 課題

- ・考えを表現する取り組みにおける理論づくりと授業実践の積み重ねを今後も継続する必要がある。
- ・主体的な学びを創り出す学習過程の構築に向けた取組が必要である。
- ・ICT機器を活用した授業実践を積み重ね、表現力を高め合う取組を模索していく必要がある。
- ・令和8年度の学校統合に向け、授業づくりの共通理解と改善を重ねる必要がある。

3 各支部の活動について

支部名	加盟校	活 動
栗 山	継立小学校 角田小学校	令和5年度の栗山支部においては、複式学級を有する継立小学校(児童数48名)と角田小学校(児童数53名)が加盟しています。今年度、継立小学校は第5・6年生、角田小学校は第2・3学年が複式学級としてスタートしたところです。 両校では、へき地小規模校の特性(強み)を生かした、授業の工夫を全校体制で取り組んでいます。継立小学校では、「主体的に話し合い、互いに高め合う子どもの育成」をテーマとして、Chromebookを活用した指導の充実に取り組んでいます。角田小学校では、「自ら考える子どもの育成」をテーマとして、算数科における基礎基本の定着を図るために、授業改善に取り組んでいます。

		<p>今後、子どもたちが自ら授業を進めて、問題把握から課題設定、課題追求、まとめなどに取り組んでいくファシリテーター型授業の構築を目指しているところです。これから自然豊かな教育環境や地域の教育資源などを一層活用するとともに、地域と共にある学校として、目指す子ども像を地域と共有しながら教育活動に取り組んでまいります。</p>
岩見沢	<p>メープル小学校 北村小学校 北村中学校</p>	<p>岩見沢支部は、複式校としてメープル小学校（児童数21名）、北村小学校（児童数73名）の2校、へき地校として、北村中学校（生徒数42名）同じく北村小学校の2校が加盟しています。</p> <p>岩見沢市の目指す「未来のトピラを拓く、教育のまち岩見沢」の実現に向けて、「子どもと創る」授業づくりを推進しています。また、加盟校3校は岩見沢市の郊外に位置し、豊かな自然環境や地域人材を活かし、地域に根ざしたふるさと教育にも永く力を入れてきました。小規模校を強みに、個別最適な学びと、仲間と協働する学びを実践しています。また、複式校においては、複式四段階を軸とした授業スタイルにとらわれることなく、「自律した学習者を育て、こどもが自走する授業づくり」に視点を置いた研究を推進していきます。「良い地域には良い学校があり、良い学校をつくることで良い地域が形成される」という岩見沢の教育方針にならって、各校はP T A活動にも積極的に力を入れています。</p>
夕張	<p>ゆうばり小学校 ゆうばり中学校</p>	<p>夕張支部は、ゆうばり小学校（児童数143名）、夕張中学校（生徒数87名）がへき地校として加盟しております。本市では、夕張市教育研究協議会や小中合同の「夕張市学校運営協議会」、「夕張市学力向上プロジェクト委員会（通称：ユープロ）」、また、夕張高等学校、夕張高等養護学校の校長も参加した、市内校長・教頭合同会議等において、小・中・道立学校が連携して夕張市の教育活動の充実に努めています。</p> <p>さらに、令和6年度から本格導入する小中一貫教育を推進するために、「夕張市立小中学校一貫教育推進委員会」を設置して準備を進めています。校舎が距離的に少し離れている立地条件ですが、校舎分離型の一貫教育を進めるためのランドデザインを策定し“15歳の自立”を理念に『ふるさと夕張に誇りをもち、他者と協働しながら学びに向かい、新たな価値を創造する生徒』をめざす15歳の姿としました。</p> <p>今後は9年間の連続性を重視した教育活動の構築に向け、すぐに取り組むことや中・長期的に目指すことなど精査していきます。</p>
月形	<p>月形小学校 月形中学校</p>	<p>月形支部は、月形小学校（児童数70名）、月形中学校（生徒数51名）が加盟しております。月形町の教育の特色の一つとして、異校種間連携が挙げられます。5月には、小・中・高合同の地域クリーン作戦を実施し、地域の環境について考える良い機会となりました。その他、小学校では各校種毎に児童・生徒間交流を積極的に進めています。</p> <p>さて、本町では、令和9年度に小・中学校を統合した義務教育学校を設置する計画を進めており、今年度、開校準備委員会を立ち上げました。まずは、組織体制の整備、学校関係者・児童・保護者へのアンケートの実施、校舎設計に係わるワークショップの他、安平町早来学園の視察も行き、開校へ向けての第一歩を踏み出しました。子供達はもちろん、地域の期待に応えられる学校づくりを目指して準備を進めていきたいと考えています。</p>
浦臼	<p>浦臼小学校 浦臼中学校</p>	<p>浦臼町は、1クラスあたり15名前後という利点を活かし、きめ細やかな指導を実施しています。町教育振興会の園小中部会は5年目を迎え、園小の連携では、園児が散歩の途中に小の施設に立ち寄るなど、園児と児童が身近に感じる連携を深めています。小中の連携では、教員が互いに授業交流を行ったり、小学校が中学校へ訪問し体験学習をすることによって中1ギャップの予防につなげるなど様々な取組を行っています。</p> <p>今年度は一日防災学校を町教育委員会を主催に小中で避難所設営体験や防災グッズ製作体験などを実施することができました。また、1人1台端末のPCを活用して個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、ドリルを使った反復及び応用学習を実施したり、多人数でデータを共有して同時に作成できるファイルを活用したりと、より深い学びの取組を推進しています。今年度は、高知県の学校とオンラインで授業や取組を見せ合う取組を実施しています。また、小学校第6学年・中学校第2学年において札幌地下歩行空間で「浦臼PR活動」を実施しました。中学校は高知県本山町立嶺北中学校の生徒とともに2町のPRをしました。</p>

砂川	北光小学校	<p>砂川支部は、北光小学校（全校児童数45名）のみが空知へき地複式教育研究連盟に加盟しています。令和4年度に続き、令和5年度も第2・3学年と第4・5学年の2学級が複式学級となり、教育課程を工夫・改善しながら教育活動を推進してきました。また、砂川市は、複式授業における指導体制の充実の為、市費において複式支援員を2名配置しております。</p> <p>さて現在、砂川市では「小中学校適正配置計画」のもと、令和8年度の義務教育学校開校に向けた様々な取組がスタートしています。そのため、本校では、小小連携・小中連携を通じた児童間・教員間の交流、学習規律や生活のきまりの統一を図るための砂川スタイルの確立と実践など、学校規模を超えた視点に立った取組と、複式校ならではの特色を活かした取組との両立を目指し、日々子ども達に求められる資質・能力の育成に努めています。</p> <p>閉校まで残りおよそ2年の北光小学校ですが、自然豊かで地域の皆様の温かい眼差しを感じられるこの地で、子ども達は学年の枠を超え、縦割り活動や全校行事など、全校児童・教職員一丸となって素晴らしい校風創りに邁進していきます。</p>
北竜	真竜小学校 北竜中学校	<p>北竜支部は、真竜小学校（児童数62名）、北竜中学校（生徒数34名）がへき地校として加盟しております。本町では、今年度、全国一の作付面積を誇る「ひまわり」で有名な北竜町のリソースを生かし、ひまわりから始まり、ひまわりを題材にした小中学校の7年間を見通した総合的な学習の時間の全体計画及び単元計画の見直しを行いました。また、1町1校の小中学校の強みを生かし、小中連携による中学校主導の着衣泳体験や、中学生のひまわりガイドを小学生が体験するなど、小中が共に学ぶ基盤づくりに取り組むとともに、いじめ根絶集会や海外留学報告会、町民文化祭など、小中学校の児童生徒が物理的に接触し、顔を合わせる機会を大切にしてきました。</p> <p>今後も少人数による学校のよさを最大限に生かし、体験活動の充実やフットワークの軽さなどによる学習に積極的に取り組み、特徴ある教育活動の推進に、より一層励んでいきたいと意気込みます。</p>
深川	北新小学校 音江小学校 納内小学校 多度志小学校	<p>深川市は、複式校として音江小（児童数53名）・納内小（児童数40名）・北新小（児童数33名）の3校、へき地複式校として多度志小（児童数18名）の計4校が空知へき地複式教育研究連盟に加盟しています。</p> <p>管内で一番加盟校の多い深川支部は、空知管内におけるへき地複式教育の中心地区として日々子ども達の確かな学びのために研鑽に励んでおります。一昨年度より、市内小中学校のICT環境が整備され、児童一人一台の端末と高速通信環境が整い、それぞれの学校がICTの有効活用についての研究を進めています。また、小規模校同士の繋がりを深めるため、北新小と多度志小の遠足や修学旅行・宿泊学習など、合同の学校行事を行い、今年度はこの両校で同時間接遠隔学習も行っています。</p> <p>いずれの学校も、自然豊かな環境のもと、地域教材や人材に恵まれ、それぞれの特色を出しながら、日々の教育活動や地域行事に積極的に取り組んでいます。</p>

4 おわりに

本連盟に加盟している学校は、それぞれへき地級が異なり、単式校から完全複式校まで様々です。その中で、各学校の教職員一人一人の力量向上に向けた研修等を模索しながら取組を推進してきました。しかし、今後、空知管内では、統廃合が進むことにより、加盟する支部の減少が見込まれています。

今こそ本連盟の役割を見つめ直し、へき地・複式教育の充実のため、各支部からの協力を得ながら、着実に前へと進めていきたいと考えています。